彙　報　二〇一三年七月～十二月

大谷学会

◇研究発表会

十月二十五日（金）午後一時～

於　響流館メディアホール

『愚禿鈔』における法然教学の受容と展開―「弘願一乗」の開顕を視座として―　本学講師　藤元雅文

片仮名本『因果物語』の姿勢―一向宗関係因果譚を手がかりとして―　本学講師　中川眞二

世界史における東アジアとアフリカ―いくつかの事例から考える―　本学教授　古川哲史

関連性理論による子どものことば（発言）の分析　本学教授　下道省三

藤元氏と古川氏の発表要旨を本号に掲載している。

中川氏と下道氏の発表内容は論文として次号以降に掲載予定である。

真宗総合研究所

◇委員会

七月十二日（金）午後一時～

於　博綜館第四会議室

・研究員の追加認定（国際仏教研究）について

・嘱託研究員（国際仏教研究）及び客員研究員の委嘱について

十月四日（金）午後〇時二十分～

於　博綜館第五会議室

・ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との学術協定締結について

・「科研費」採択による特別研究員人事について

十月二十三日（水）午前九時三十分～

於　博綜館第三会議室

・真宗総合研究所の東京分室設置について

十二月二十日（金）午後一時～

於　博綜館第四会議室

・二〇一四年度「一般研究」の採択について

・『真宗総合研究所研究紀要』原稿の査読について

真宗学会

◇第一回真宗学会例会

七月三日（水）午後四時二十分～

於　尋源館Ｊ一〇三教室

卒業論文梗概発表会

本学大学院修士課程第一学年　四名

◇第二回真宗学会例会

十月二日（水）午後二時四十分～

於　尋源講堂

真宗学の実践における体験の意義　本学大学院博士後期課程第二学年　中山量純

曽我量深における「食雪鬼」の自覚からみる他力救済の場所　本学大学院博士後期課程第二学年　安西　廉

◇真宗学会大会

十月十七日（木）午後三時～

於　尋源講堂

臨床仏教としての親鸞思想　本学教授　木越　康

臨床哲学の〈引き込まれ〉
―自己変容論として―
大阪大学大学院教授　中岡成文

◇真宗学科第二学年
比叡山登山・フイールドワーク
十月二十六日（土）
午後九時集合、午後二時比叡山延暦寺根本中堂前で解散。
真宗学演習Ⅱの授業の一環として第二学年の学生と担当の教員が参加。

◇第三回真宗学会例会
十月三十日（水）午後一時四十分～
於　尋源講堂
親鸞における『観経』の位置
本学大学院博士後期課程第一学年
稲岡智子

◇修士論文中間発表会
十一月六日（水）午後二時四十分～
於　二号館二二〇一教室
願生浄土　波佐谷信道
龍樹の「易行品」開設の意義　辻　真弘
清沢満之―江戸宗学との決別―　石原　樹

◇真宗学演習Ⅰ特別講演会と座談
十一月十九日（火）午後一時～
於　響流館メディアホール
学ぶこと・わかること
元大谷高校校長　真城義麿

◇第四回真宗学会例会
十一月二十七日（水）
午後二時四十分～
於　尋源講堂
「真仏土巻」における仏性論の意義
本学大学院博士後期課程第二学年
宮谷啓法
難信における師教の意義
―果遂の誓いの具体相―
本学大学院博士後期課程第二学年
橋本彰吾

◇第五回真宗学会例会
十二月四日（水）午後二時四十分～
於　尋源講堂
『教行信証』読解の課題―坂東本翻刻を通して―　本学准教授　三木彰円

◇卒業論文中間発表会
十二月五日（木）午後六時～
於　二号館二三〇一教室
現生正定聚　岩崎　径
清沢満之における宗教的信念の確立　淺井勇輝
愚禿の名乗りと救済　冨士澤悠
自力と他力　舛冨ひろか
法然の眼差し―「脱構築」としての本願念仏―　戸次　輝
還相回向　村上直暁

◇第六回真宗学会例会
十二月十一日（水）午後二時四十分～
於　尋源講堂
閉鎖的信仰の超克―曽我量深の三願転入の思索を通して―
本学大学院博士後期課程第一学年
村上良顕
曽我量深における清沢満之との値遇
―そこから明らかになるもの―
本学大学院博士後期課程第一学年
上島秀堂

仏教学会

◇研究発表例会
七月四日（木）午後四時二十分～

於　響流館マルチメディア演習室
スタンフォード大学に滞在して
本学准教授　箕浦暁雄
『中論』における否定と肯定
本学教授　山本和彦
十一月十八日（月）午後四時二十分～
於　響流館マルチメディア演習室
天台思想における菩薩行の展開
―三観と三諦―
本学教授　ロバート　F・ローズ
ジャイナ教の仏教批判―教団による村落の所有をめぐって―
本学任期制助教　河崎　豊
◇史跡踏査
十一月二十八日（木）
訪問先：黄檗山萬福寺、宝蔵院、三室戸など
◇公開講演会
十二月六日（金）午後四時二十分～
於　響流館メディアホール
大乗仏教の起源に関する諸問題
花園大学教授　佐々木閑
終了後、「畑かく」にて懇親会をおこなった。

西洋哲学・倫理学会

◇秋季公開講演会
十二月十二日（木）午後四時二十分～
於　尋源講堂
九鬼周造における永遠回帰の思想
―押韻論の観点から―
神戸市外国語大学名誉教授　小浜善信

宗教学会

◇第三十二回「大拙忌」記念公開公演会
七月四日（木）午後四時二十分～
於　尋源講堂
科学と宗教―西谷啓治の立場から
京都工芸繊維大学大学院
工芸科学研究科教授　秋富克哉

国史学会・日本仏教史学会

◇大谷大学日本史の会大会・総会
七月二十七日（土）午後一時三十分～
於　響流館メディアホール
・研究発表（午後一時四十分～）
平城京社会における寺院と住民
大艸　啓
社会教育施設としての博物館
～地方博物館の担う役割とは？～
多田あゆ美
京都府立総合資料館　東寺百合文書の
これまで・これから　岡本隆明
院政期貴族社会におけるネットワークについて
杉本　理
・総　会（午後四時五十分～）
・懇親会（午後五時二十分～）
於　一号館学生談話室・ビッグバレー
◇大谷大学日本史の会九月例会
九月二十八日（土）午後二時～
於　響流館演習室四
十二世紀における開発と荘園制
川端泰幸
◇大谷大学日本史の会十二月例会
十一月二十三日（土）午後二時～
於　響流館演習室四
『平家物語』の成立と勧修寺流藤原氏
森真理子

文　藝　学　会

◇公開講演会
七月八日（月）午後一時～
於　響流館メディアホール
「黄老」流行―諸子百家と儒教のあいだ―　本学任期制助教　鈴木達明
怪談の近代と現代　横浜国立大学教授　一柳廣孝

◇『文藝論叢』第八十一号発行
（十月A5判一五六ページ）
『今昔物語集』の欠巻問題について―巻八と巻十八の考察を中心に―　金　偉
『鈴鹿の物語』から『田村の草子』へ―写本から流布本への変容―　安藤秀幸
『清浄法行経』の研究―釈迦が派遣した三菩薩と真丹の三聖人―　野村卓美
『因果物語』の位相―平仮名本と片仮名本の編集意図について―　中川眞二
『三国志演義』における軍師像　平井ゆりか
和歌童蒙抄輪読九　黒田彰子　大秦一浩
現代北京語に関する調査研究―中国ドラマ「裸婚時代」第一集後半の訳注―　渡部　洋　早川智美　清水由香里

国　文　学　会

◇先師法要および講演会
十月五日（土）午後一時三十分～
於　尋源講堂
先師法要厳修　導師　三牧文弘
仏教文学研究五十年を回顧して　本学名誉教授　石橋義秀

中　国　文　学　会

◇卒業論文中間発表会
十月二十五日（金）～二十六日（土）
於　湖西キャンパスセミナーハウス
『聊斎志異』にみる地獄観　池本由布
祥林嫂にみる中国女性　上田千紘
『山海経』の動物について　浦野杏梨
郁達夫の作品からみる日本観～『沈淪』・『わが夢わが青春』を中心に～　大幸如子
中国古典における女仙について　大西歩実
『捜神記』における動物（哺乳類）　奥　雅也
『墨子』の明鬼篇について　鍛冶実幸
『老舎講北京』からみる北京の風習　橋髙　梓
『剪灯新話』における女性の幽霊について　佐竹由妃
孔子の教育法　谷口　敦
莫言の文学世界　山中皓太

◇学術公開講演会
十二月二日（月）午後一時～
於　尋源講堂
日中関係と『歴史認識』　平成国際大学教授　徳岡　仁

西洋文学研究会

◇年次大会
七月二十日（土）午後二時～
於　博綜館第四会議室
①総会
②研究発表（午後二時四十五分～）
エリザベス婚約の噂はどこから？
浅若裕彦
全裸であろうとする人たち―ドイツ裸体主義文化の成立―　平井昌也
子どものための『星の王子さま』
藤田義孝

英文学会

◇年次大会
十二月十二日（木）午後四時二十分～
於　一号館一一一〇教室
研究発表
ディケンズの『クリスマス・キャロル』における想像性とリアリズム
木島菜菜子
卒業論文中間発表　司会　木村亜祐美
①ジェイン・オースティン『高慢と偏見』について
桑原貴弘
②チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』について　小倉美佳

国語教育学会

◇第一回研究大会
十一月二十三日（土）午後二時～
於　五号館五一〇一教室
実践報告「図書館のひみつをさぐろう『ぼくたち附小図書館たんていだん』」を中心に
京都女子大学附属小学校教諭
田中陽子

人文情報学科

◇尋源館竣工百周年記念作品「百」（DVD）松川節教授のゼミ生が第二撮影班として撮影に参加。
◇国立大学図書館協会近畿地区協会「携帯情報端末で広がる図書館サービス」
九月十九日（木）　於　滋賀医科大学
池田佳和教授が人文学における iPad の活用事例を発表。

短期仏教科

◇第二学年卒業研究中間発表一夜研修会
九月十三日（金）～十四日（土）
於　湖西キャンパスセミナーハウス
第二学年の一夜研修会を開催。十二月二日の卒業研究の提出に向けて、中間発表会と、教員を交えての懇談会を行った。

学生会員 投稿規程

1. 本学会学生会員で、『大谷学報』に論文の掲載を希望するものは、指導教員の推薦状を添えて投稿できる（一六〇〇〇字以内とする）。
2. 投稿された論文は、審査を経て採否が決定される。
3. 論文の審査は、編集委員および編集委員が選任委嘱する審査委員（若干名）によって行われる。
4. 審査の結果は左記の通りとし、②③の場合には、投稿者にその理由を通知する。
   ①採用
   ②条件付き採用（修正がなされた場合採用）
   ③不採用
5. この規程は、『大谷学報』第八十九巻第一号より適用される。